

千年の森便り No.132

2014.8.21

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.digi2.jp/>

事務局長 伊藤道男

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

8月2日(土) 晴 臨時活動日

夏のキノコ観察会下見のため、臨時活動を行いました。参加は赤松、新井通子、鶴沢、松田、真鍋の5名。

○キノコ観察

あいにく千年の森は、ここ十数日来雨が降らず高温の連続で林床が乾燥して、キノコの発生には最悪の条件でありましたので、期待を裏切り、わずかな種類の観察となりました。しかし、キノコの観察は、一種のギャブルのようなもの、良い条件に遭遇するか否かは、その場になって判るもの。それがキノコ観察の魅力だと思います。

観察したキノコは下記の17種です。(松田)

テングタケ科：フクロツルタケ、カブラテングタケ

イグチ科：キイロイグチ、キアミアシイグチ、アメリカウラベニイロガワリ

ベニタケ科：ドクベニタケ

イボタケ科：ボタンイボタケの仲間、イボタケの仲間

マツバハリタケ科：ケロウジ、ニオイハリタケの仲間

ニンギョウタケモドキ科：コウモリタケ

タマショレイタケ科：ウチワタケ、ヒトクチタケ、ハカラタケ、カワラタケ

ツガサルノコシカケ科：マスタケ クロサイワイタケ科：クロコブタケ



カブラテングタケ 8/2 松田

○植物観察

マツグミは咲き終えて、モミの木の下に花びらがいくつか。湖に面した北斜面にシャクジョウソウの群落を見つけました。今年は開花が早く、花は終わり蒴果が出来始めていました。昨年の蒴果も数株ありました。クロムヨウランは数十株咲いていましたが、朝10時過ぎ、何故か花を閉じていました。(真鍋)



シャクジョウソウ 8/2 真鍋



アメリカウラベニイロガワリ 8/2 真鍋

8月17日(日) 晴 夏のキノコ観察会

参加は新井孝男、伊藤、鶴沢、久我夫妻、栗山、坂本、高橋洋子、田島、福島、降幡、真鍋、村野、山口の会員14名に吹春先生、千葉大の清水先生ご家族と日大の板倉・景山さん、常連になった市原の加藤さん、座間の上田さん、千葉菌の大鷲夫妻と伊豆夫妻、今回初参加の市原の寺嶋さん、君津の鈴木夫妻・山田・戸村・鈴木さん、木更津の小倉夫妻、千倉の田中さん親子の総勢38名でした。

ラジオ体操の後、吹春グループ、坂本グループ、福島グループ、ベテラン銘々組などに分かれ、キノコ探しに出発しました。列島各地大雨のニュースをしりめに、干天続きの千年の森は、先週の雨も焼け石に水か、林床にキノコが非常に少ない。集められた僅かなキノコを吹春先生が同定、わかりやすく面白く解説いただき、みな熱心に聴き入りました。

千年の森史上最もキノコの少ない観察会でしたが、参加の皆さま、豊英島の自然を楽しみ、「また来ます！」と言いながら、笑顔で帰って行かれ、救われました。これに懲りずに、また是非お出かけ下さい。(真鍋)





キノコ発見！視線が集中



「コシロオニタケとシロオニタケの違いは・・・」
と吹春レクチャーに熱がこもる



吹春レクチャーに聴き入る



昼休みに豊英島ガイド



木陰の昼食は格別美味しい



森の遊びは楽しい

○採取キノコ 下記の21種でした。(村野、降幡)

- テングタケ科 ツルタケ コシロオニタケ (画像4頁) フクロツルタケ
- オニグチ科 アヤメイグチの仲間 (画像4頁)
- ウラベニガサ科 ウラベニガサの仲間
- ヒメツチグリ科 ヒメツチグリ
- ニセショウロ科 ニセショウロの仲間
- タコウキン科 キアシグロタケ ヒイロタケ ウチワタケ
- ホコリタケ科 ノウタケ
- ウロコタケ科 モミジウロコタケ
- マンネンタケ科 コフキサルノコシカケ
- 不明種 7種
- 偽菌類 ムラサキホコリタケの仲間



ヒメツチグリ 8/17 加藤



ムラサキホコリタケ sp.8/17 坂本

○吹春先生のお話

胞子の色で分類するときのこの見分け方で毎度同じ資料です。本日はあまりキノコが採れていませんが、考えると、キノコが胞子を飛ばす時期は菌糸が成長しやすい時期であるということを見ると、今はその時期ではないということかもしれません。ただ、私が参加するとキノコが採れないということもありますけども。

まずはじめに、キシメジ科は胞子が白いということで分けられています。日本産のキノコは10000種類で、そのうち名前が付いているのは3000から2500種とされています。そして1000種類位の図鑑ということを見ると、なかなか見分けが厳しいのが現実です。

次に、テングタケです。テングタケはツバがあって、ツボがあります。本日、ツルタケが採れていますが、ツルタケはツバがありません。そして、溝線があるのが特徴です。昔は食べられるということで、ここに参加されている方も食べられた方がいますが、今は要注意となっています。また、コシロオニタケが採れていますが、内皮膜が綿状となっています。シロオニタケと類似しますが、シロオニタケは傘に付く鱗片が尖っていることで見分けができます。メルツアー試薬でアミロイドと反応するかしないかで見分ける方法もありますが、

まずは形を覚えてください。コシロオニタケは君津で見られるのは珍しいかも知れません。そして、フクロツルタケが採れていますが、猛毒菌ですので覚えておいてください。フクロツルタケはツバがありませんし、茶色になる鱗片があるのが特徴です。

余談ですが、テングタケは北半球に見られ、地域限定型です。もともと北半球のキノコであるベニテングタケがありますが、今は、南半球でも見られるようになり、外来種として問題となっています。

次に、ハラタケですが、本日ウラベニガサが採れていますが、胞子が褐色となる種類です。代表的なものはウラベニホテイシメジ、ウラベニガサです。ウラベニホテイシメジの胞子は丸い胞子ですが、ウラベニガサの胞子は角ばっています。

あとは固いキノコですが、500種類位あると言われていています。まずはじめに、コフキサルノコシカケですが、毎年、かん口の部分が重なっていくもので、プラスとマイナスのイオンでかん口から放出された胞子が表面に茶色く付着しています。漢方薬の世界では、梅林で採れるものが高級のようです。

ここにヒラフスベが採れていますが、ヒラフスベとアイカワタケがありますが、もともと違う分類でしたが、DNA 鑑定の結果、同じものであることが分かっています。ヒラフスベの反対側にはアイカワタケが発生していることがあります。

次に、子嚢菌類です。ニセショウロとショウロの見分け方は分かりますか。切ってみるとニセショウロは中が黒色、ショウロはクリーム色から白色です。ショウロ饅頭は黒餡ではありません。間違いです。

ヒメツチグリも採れていますが、ツチグリは東北とか、タイでは食されており、おいしいようです。

ノウタケも採れていますが、胞子を出す上部と胞子を出さない下部に分かれており、オオノウタケという種類もありますが、オオノウタケの胞子はイボイボですので見分けることができます。

こちらのどんぐりの幼苗を見てください。種の下の部分に菌根菌が付いています。幼苗の時期から菌類と共生しているということですので、後ほど、確認してください。(4 頁画像参照)

最後に、変性菌。もともと菌類に分類されていましたが、今は偽菌類に分類されており、本日はムラサキホコリの仲間が採れています。木材の中のバクテリアを食べて、木材の表面にアメーバー状に染み出てくるのが特徴です。決して、木材のリグニン・セルロースを分解しているわけではありません。もともと、リグニン・セルロースを分解するにはセルラーゼという酵素が必要で、ナラタケやナラタケモドキが代表です。(降幡)

○キノコ観察会に行きました。

キノコを探して山の中を歩きました。ぼくが見つけたキノコを、ツキヨダケだ!と言ったら、先生が「ツキヨダケは千葉県には無いんだよ。ツキヨダケだったら大発見だよ。」と教えてくれました。少し残念だったけど、大発見をしたくなりました。次は、キノコが大好きなお兄ちゃんといっしょに参加したいです。

(千倉小学校 2年 田中秀朋君)



先生二人を前に、キノコ図鑑で調べる秀朋君

○豊英島散策記

千年の森の福島さんに豊英島を案内して頂きました。雨不足のため水位が低くなっていたため、通常歩けない場所にも降り立ち、島を散策させて頂きました。散策途中では、鳶の巣の跡を間近に見ることもでき、鳥好きの妻は喜んでおりました。

今回は「雨不足のため」ということで、当然キノコの発生も少なく、鑑定会の解説では珍しく堅いキノコが主役となり、少しだけ残念でした。しかし、散策中、島のあちこちから強い腐葉土の香りがしていましたので、地面の中にはキノコの本体である菌がたくさんあるのでしょう。

家から比較的近くでキノコを見れる場所のようですので、キノコの勉強のため、[また](#)、妻共々、豊英島にお邪魔させて頂ければと思います。(木更津市 小倉豊史さん)

○健脚コースでがんばりました！

私は小倉夫妻、鈴木夫妻、寺嶋さんとともに、きのこを探して夏の豊英島を散策しました。コースは、なるべく湖に近い湿った場所を狙って回るということで、まずは、つり橋の下から湖沿いに北岸を歩き、その後、巨木林エリアを抜けて南岸の入り江の方に降りて禁断の岬方向へ回りました。途中、吹春先生グループと出会ったので、その先にはきのこはないと思い、次に千年広場を経由して残り30分でホテイ岬方面まで回りました。

12時までめいっぱい歩き回り、なかなかのハードコースだったと思います。きのこについては、私は全然見つけられませんでした。小倉夫妻が巨木林エリアで樹上に出ていたヒラフスベ(アイカワタケ)を発見し、鈴木夫妻が入り江で大きな白い卵状態のツルタケを発見しました(拍手!)。みなさんのおかげで楽しく散策をすることができました。健脚コースにお付き合いいただきありがとうございました。(福島)

○千年の森きのこ観察会

前日、山を歩いた感じではまったくきのこがなかったので、ビミョーだと思いましたが、ほかにも珍しいものがたくさんある場所なので楽しみ！



最初に見つけたきのこ、シロオニタケかと思いきや、ちょっと違うようでコシロオニタケ(コササクレシロオニタケ?)だそうです。10cm弱でした。傘の被膜がワタ状のところ、全体小型のところは識別点だそうです。他にツルタケ、フクロツルタケ(猛毒)がありました。



私が見つけたきのこはたった一本でした。アヤメイグチの仲間です。柄の部分の無精ひげがちょびっと出てくる感じ

たいなのが特徴的です。

なんとまあイグチはこれ一本しかありませんでした。ベニタケ科すら一本もなく、あーあ、やっちゃったね。



F先生がコナラの実生苗を採取してきて下さいました。どうもきのこが出ない予感

したようですね(^ ^) 左の太いのが主根、右に細根が伸びています。その先端が靴下をはいたように丸みを帯びて、菌根菌がもう付着しているのがわかります。ここを輪切りにして実体顕微鏡で見ると中に菌が入っているのが見えると思います。

こんなまだ10cmほどの実生苗に、すでに菌との共生が始まっているというのは驚くべき事ですね。

今回もきのこは少なかったのですが新しい発見や、千年の森のみなさんとの触れあいがあり、とても楽しい一日でした。(市原市 加藤恵美子さん)(編集者注)ブログ「千葉の自然見~つけた」8月17日記事抜粋です。紙面の都合で大幅に画像と記事をカット・編集しています。原文はブログ <http://blogs.yahoo.co.jp/emi3merlin> をご覧ください。



クロムヨウランも大きな株がありました。

11時前でしたが開花しているものはなく、残念でした。もっと早い方が良いのか分かりませんが。

シャクジョウソウも咲いていましたが、やや枯れていて、やはり雨のなかった

ことが原因なのかと思ったり・・・。

でも昆虫はタマムシや、カブトムシ(遺骸)、コクワガタ♀、ヨツボシケシキスイ、オオシオカラトンボが見つかり、コムスジやオオセンチコガネも飛んでいきました♪



○昆虫観察記

コナラの昆虫酒場は賑やか！樹液にカナブン、クロカナブン、スジクワガタ♀、ヨツボシケシキスイ、ムナビロオ



カナブン等(コナラの樹液)8/17 田島



ヒメウマノオバチ♀8/17 田島



スキバツリアブ 8/17 田島

オキスイ、ホシアシナガヤセバエ、ウシアブ、ムネアカオオアリがいました。ヒメウマノオバチが伐採木の小さな穴を出たり入ったりし産卵場所を探している様子。このハチはカミキリムシの幼虫に産卵するため長い産卵管を持っています。地面にはスキバツリアブがたくさんいました。これは土の中のハチの幼虫に産卵するそうです。

(他に観察された昆虫) ナガサキアゲハ、アオスジアゲハ、ムラサキシジミ、サトキマダラヒカゲ、コムスジ、ヒメウラナミジャノメ、ツツガ、オスグロトモエ、クロハグルマエダシャク、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ナツアカネ、ウスバキトンボ、ホソミオツネトンボ、ヤマトタマムシ、ノコギリカミキリ、キマワリ、ツクツクボウシ、ミンミンゼミ、アブラゼミ、ニイニイゼミ、ミカドトックリバチ、キオビツチバチ、オオモンツチバチ、ルリジガバチ、シロオビハリバエ、シオヤアブ、オオカマキリ(幼虫)、モリチャバネゴキブリ(田島)

○野鳥記録

豊英島へ初めて来られた方々の島内案内と並行して野鳥の記録を取りましたが、過去、最低の記録になりました。高温多湿で野鳥の動きが不活発だったのかも知れません。常連のカラス、ヤマガラなども声が無かったです。聞いた方は追加願います。私自身の神経が野鳥に集中していなかった所為もあると思います。

カワウ3 トビ2 コゲラ声 ヒヨドリ声 エナガ7 以上 5種

(坂本)

○ニホンジカ親子連れ

ホテイ岬方面に設置したカメラに親子連れ3頭と袋角が生えかけたみシカの画像がありました。

吊り橋方面のカメラは空振り続きです。

(坂本)



ニホンジカ親子 7/21 センサーカメラ 8:23

○仮倉庫の収納物整理と補修作業

環境整備班の活動

仮囲いをし、ブルーシートをかけただけの仮倉庫は、意外と長持ちがして既に一部補修はしたものの便利に使って7年以上がたとうとしています。今回、中の収納物をすべて搬出し、中間棚を補強し、不要物を整理の上、目的物をすぐ出して、利用できるように整理収納しました。屋根部分も一部の横棒が腐って、ブルーシートが垂れ下がり雨水がたまっていたものも、補修して雨がたまらないようにしました。また、フィールドを囲う資材(不朽の心配のないもの)も、外部に整理の上立てかけるようにし、いつでも利用できるようにしました。携わったメンバーは高橋洋子、久我則子、鶴沢、新井(孝)です。お疲れ様でした。(鶴沢)

お知らせ

○9月の定例活動日 9月21日(日) 9時30分、県民の森駐車場集合。シカ個体数調査、環境整備(収納庫、観察路、広場など)、植物観察、野鳥調査、昆虫観察、キノコ観察など計画しています。